



2018.11.9
vol. 08

特集
利府で商いをする魅力をさぐる

十符の里びと 8人目
利府町長
熊谷大さん

from RIFU-CHO CHALLENGER
陶芸家 INAGO BALL
鈴木俊明さん



利府駅前 tsumiki から
まち・ひと・しごとを発信

利府で 商いをする 魅力

特集

利府町は、利府街道沿いを中心に大型商業施設や大手チェーン店が並ぶ一方で、団地内や東部沿岸地区には、小規模ながらも個性的な店が地域に根づいています。利府町に起業することの魅力や利点、こだわりなど、町内で洋菓子店やカフェを営んでいる店主3人にお話をうかがいました。



CASE 1 地域に愛され続ける洋菓子店を、地道にのんびりと。



パティスリー ハッチ
Pâtisserie Hacchi
店主 おおはし くみこ 大橋 久美子さん(43歳)

一利府町にお店を構えて15年になるんですね。

高校卒業後の進路を考える時、漠然と「手に職を付けたい!」と思うようになったんです。母が家で手作りのお菓子を作っていたことにも影響を受け、東京の製菓専門学校へ進学を決めました。2年目は大阪で勉強し、そのあと約10年間東京の洋菓子店で修業しました。30歳前に「起業したい!」と思い立ち、地元に戻り、お店を開く場所を探し始めました。私は塩釜市出身なので周辺をいろいろ検討したのですが、利府は新しい住宅地が多く、子どもも多い。そして自然も豊かで、今から発展する町。「お店を開くならここだ!」と思いました。店の名前は、私の小学校時代からのあだ名「はっち」としました。私の中でも愛着がある言葉なので。

一洋菓子店を開くためどのような準備をしたのですか。

お店を構えるということは本当に大変で

した。初めての土地に、初めてお店を作る。物件探しや資金繰り、内装、デザインや工事。何から始めたらよいのか、何をどこに頼んだらいいのかわからない。一人で抱え込みそうになった時、手を差し伸べてくれたのは、今まで出会った人たちとのつながりでした。資金面では、実家の両親が応援してくれました。開店してから毎日大変でしたが、だんだんと近所の方にも知っていただくようになり、顔なじみのお客さんも増えました。

一商品のこだわりはありますか。

「普段のおやつとして、日常的に食べてもらいたい」と思っているので、甘すぎない洋菓子を、リーズナブルなお値段で提供しています。そして、洋菓子を通じて季節を楽しんでいただけるよう、旬の食材を使った「限定商品」を欠かさず作っています。「まずは私が美味しいと



思ったもの」を基準にし、流行に流されないお菓子作りを心がけています。最近では、近所の方がふらっと立ち寄ってくれたり、男性の方も一人で来てくれたり。遠方からわざわざ足を運んでくださるお客さんもいらっしゃいます。些細なことですが、お客さんとのつながりがすごくうれしいです。これからもお店に来てくれるお客さんのニーズを汲み取って、地道にのんびりと、地域に愛されるお店を続けていければと思っています。

取材・文 大宮紗紀

宮城県宮城郡利府町菅谷台3-13-1 / Tel 022-767-0368 / 営業時間 10:00 ~ 19:00 / 定休日 水曜日・第3火曜日

暮らしに溶け込む、小さなフランス菓子屋

一お二人がお店を始めたのは、2017年11月でしたね。

東京の洋菓子店で修行をし、地元である利府町に戻り妻と二人で開業しました。お店にはケーキのほかに、パンと焼き菓子を置いています。楽しみとしてのスイーツと、食事としてのパン。どちらも楽しんでいただくのがうちのモットーです。品数の多さにもこだわっています。お客さまに「どれにしようか…」ワクワクしながら選んでもらえるよう、見た目や色



合いも考え、たえず新しい商品を作って並べることを心がけています。おすすめはシュークリーム。生地を3回に分けて焼くので、ザクザクと噛み応えがあるんです。クリームは濃厚なカスタードを使っています。素材にこだわり、味のバランスを考えながら、試行錯誤して完成させました。

一オープンまで、どんな準備をしたのですか。

お菓子作りは専門ですが、そのほかはわからないことだらけ。オープンまでには、準備することがたくさんありました。店舗は白を基調にするつもりでしたが、内装屋さんのアイデアで壁の一部をターコイズブルーにしたんです。ショーケースのタイルが明るい青だったので、統一感が出てイメージカラーになりました。事業経営については、仙台市起業支援センター「アシンスタ」に通って教えていただきました。最初は手当たりしだい、いろいろなセミナーに出席していましたが、信頼ができてアドバイスが具体的に

もらえるところに絞って相談することにしたんです。時間のロスが減り、いい結果につながったと思います。

一利府に開業してよかったことはありますか?

近所の子どもたちがお小遣いを握りしめてきてくれるようなお店にしたいと思っていました。そのためには、手ごろな価格帯を考えています。だからオープン初日に、小さい女の子がやってきて、マカロンを一つ買ってくれたのが、本当にうれしかったです。始めたばかりの店ですが、お土産や差し入れの品に使ってくださったり、パンを召し上がりに1日に2度もお顔を覚えてくれる方もいます。そういった温かいおつき合いができるのは「地元利府で開業したおかげだな」と感じています。今後は、お客さまのご希望に応えながら、皆さんに喜んでいただけるよう、夫婦で力を合わせてお店を続けていきたいです。

取材・文 玉川亜桜子

コション
Cochon
パティスリー カフェ
pâtisserie café

店主 たんご かず や
丹呉 和也さん(31歳)



宮城県宮城郡利府町沢乙東2-7 / Tel 022-209-3098
営業時間 10:00 ~ 19:00 / 定休日 火・水曜日(臨時休業あり)

CASE 2

CASE 3 海と隔てなく つなぐ場所を求めて

モラ モラ カフェ
MOLA MOLA CAFE

すえ なが おさみ
店主 末永 統海さん(38歳)



一どうして利府町の浜田でカフェを開いたんですか。

実は特に利府町にこだわったわけではありません。「海辺」でカフェをやりたいと思って、4年間探し回りました。気になった物件は朝昼晩、平日、休日と、その雰囲気や周りの人の流れを観察しに何度も足を運びました。大切なのは海までの距離感。それから駐車場のスペースが確保できること、JR陸前浜田駅が近いことは場所を選ぶ一つの決め手になりました。オープンしたのは、2017年7月。店内は、どの席からでも松島湾を眺めることができます。特に窓際のカウンター席は視界を遮る物がないので海を独り占めしたような気分になれます。そんなゆったりとした空間を作りたいかったんです。

一店づくりのこだわりはありますか。

仙台市の一帯にある『MILLS』の2代目として、いくつかの店の経営を経験し失敗含めて実体験があります。だから、カフェ経営の難しさはわかっています。それだけに、マーケティングや資金繰りなどはしっかり計算しました。店舗は、もともと飲食店だった物件です。内装のできるところは、自分で改装したんです。壁紙の一部を貼ったり窓のブラインドを取り付けたり。自分でやるとお金も掛からないでしょう。さすがに床とか外壁は専門業者に頼みましたけどね。景色を見ながら思い思いの過ごし方をしてもらうのが理想なので、松島や塩竈の景勝地やランチのお店とか

をハシゴしながら、とにかく気軽に来れるようなスタイルにしたかったんです。だからあえてランチはやらず、バインミーというベトナムのサンドイッチなどの軽食。季節によって種類が入れ替わるベルギーアイスやコーヒータなどのドリンク類が中心です。

一どこまでも海が好きなんです。

店名の「モラモラ」は、ラテン語でマンボウという意味なんです。インド



ネシアでは太陽の魚と呼ばれています。学名なので全世界共通で読めること。語感、字数などを考えて決めました。コーヒ一片手に堤防に座って海を感じるのもいいし、釣りをするのもいい。道路や電信柱に遮られない、とにかくいい海風を感じ取れる店を作りたいだったので。現在行われている堤防の工事が終わったら、外のテラス席をもっと増やしたいですね。これからが本番だと思っています。周辺の環境が整う来年の夏がとても楽しみです。

取材・文 櫻井陽子

宮城県宮城郡利府町赤沼字浜田100-55 / 営業時間 11:00 ~ 17:00 / 定休日 水曜日

利府町ののんびりまち歩き
スイーツ・カフェめぐり
案内人 ● ライター 塾2018受講生



駅前
JR利府駅・
tsumiki前から
スタート!

焼き処 笑家

りふレ横丁に隠れスイーツ?そこには『男前パフェ』というビールジョッキに作るメのパフェがあるらしい(要予約)。



利府町中央1-5-2 / 022-349-0023

沢乙

patissier mou mol molle
人気商品の「コク濃プリン」。那須の御養卵、蔵王産チーズ、北海道産生クリームと材料を吟味し産地選びにもこだわる。



利府町沢乙字高島町54-3
022-385-6518

菅谷台



特集6check

Pâtisserie Hacchi

定番のいちごのショートケーキ、エクレア、ハッチロール、旬の果物をコンポートにした季節限定の洋菓子がイチャオン。

沢乙東



特集6check

Cochon
pâtisserie café

何を買おうか迷ったら、まずは、クリームが濃厚で皮もしっとりとしたシュークリームとサクッとした感触のクロワッサン。

青葉台



マヤナツカフェ DovesNest

隠れ家の自宅カフェ。マヤナツを使ったマヤナツコーヒ(ノンカフェイン)が飲めるのは東北ではここだけ。

利府町青葉台3-1-362 / 080-1815-2205

Rêve de Rupinas

利府名産の梨を材料に使ったお菓子が豊富。利府街道にちなんだ「利府菓道」が一番人気の町のケーキ屋さん。

花園



利府町花園2-20-4
022-356-0372

森郷



生石庵 Oishi-An

森の中にあるカフェです。自家製パンを使った具だくさんのサンドイッチ、季節のスイーツ、自家焙煎コーヒーも楽しめます。

利府町森郷内の目南 / 050-3558-0149

特集6check

MOLA MOLA CAFE

満月の日は、21時まで夜営業。晴れた日に海に写る月明かりの美しさは格別、海の景色が一番のご馳走。





8人目

～お名前
く ま が い ゆ た か
熊谷 大 さん (43歳)

～なにをしているひとですか？
宮城県利府町の町長です。



「暮らしも心もゆたかになる町」を目指して

熊谷町長は、仙台市生まれ。現在、家族と利府町菅谷台に暮らしています。2010～16年まで参議院議員として国政の場で活躍し、今年2月、利府町長に就任しました。「暮らしも心もゆたかになる町」を目指して奮闘する熊谷町長を、tsumikiディレクター桃生和成が訪ね、話をお聞きました。

桃生 町長に就任して半年が過ぎました(8月取材当時)。「暮らしも心もゆたかになる利府町」を目指していますが、町長が考える「ゆたかさ」とは何でしょう。

町長 「ゆたかさ」は、可能性です。「何かやろう!」と思ったときに、それを阻害したり制限したりする要素があってはいけない。自己実現や個々の目標が叶えられるための資源や雇用促進がたくさんある町が豊かな町だと思っています。この町はその可能性にあふれています。ですから、いままある資源を土台に、さらに「ゆたかさ＝可能性」を築き上げていきたいです。

桃生 若い頃から政治に関心があったのですか。

町長 二十歳のころは、今こうして政治家となっているなんて、これっぽちも想像していませんでしたね。私

が学生の頃は、就職氷河期。パブルがはじけたあとの閉塞感と、これからどうなるんだろうという不安で、社会の流れが読めず暗中模索していました。当時は、自分の思うようなやりたい仕事に就くことができませんでした。でもその時の経験は、今の仕事の糧になり、アイデアの基になっていることは確かです。

桃生 現代は、いろいろチャンスが広がって、就職する方、起業して独立する方など、多様な働き方の選択肢がありますね。

町長 そうですね。町民一人ひとりがやりたいと思っていることを、町がどのように支援していくのが、これからのまちづくりの大きな要素だと思いますね。最初は個人的な試みでも、やがてはベンチャービジネスや大きな仕事につながっていく可能性があるので、一方では、ベンチャー企業を立ち上げても10年後には約93%がつぶれているといわれている中で、ベンチャー支援のために公金を投入する是非についての議論は当然起こってきます。残り7%に賭けるにはリスクが伴いますが、成功すれば町の特色になり得るものも大きいです。



～活動の情報 利府町(役場)
 ● 宮城県宮城郡利府町利府字新並松4番地
 ☎ 022-767-2111
 🌐 http://www.town.rifu.miyagi.jp



利府町で暮らす面白い人を毎号紹介していきます

十符(とふ)とは? ……昔、利府町の湿地帯には、良質な菅(スゲ)草が生じ、「菅藪(スガコモ)」と呼ばれる動物が作られていました。その菅藪の編み目が10編あることから「十符の菅藪」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十(と)が利(と)に、符が府に変わったと言われています。

from RIFU-CHO CHALLENGER

今回ご紹介するのは「INAGO BALL」の鈴木俊明さん。いあきなう市やtsumikiセレクトショップ・モンパ(モンパ・カネウツ・カネウツ)に出版した陶芸家です。

— CHALLENGER

陶芸家 INAGO BALL
すずき としあき
鈴木俊明さん(46歳)



—— 陶芸での表現を追求する陶芸家

鈴木さんは、利府町生まれ。現在も利府町に暮らし、歯科技工士として働きながら、陶芸家としての顔を持つ。自身の作品について、「土を使った焼き物で、その対角にある水や海を連想できるものを表現したい」と語る。鈴木さんの作品は独創的で、陶芸でできるあらゆる可能性を追求し常に試行錯誤している。その姿勢が作品の個性として表れているのが特徴だ。

—— 匠匠への憧れ、仕事との両立

8年前、30代後半から始めた陶芸教室で陶芸家・大江文彦氏に出会い、師事した。大江氏は陶芸を始めて数年の間に数多くの賞を受賞した天才肌の持ち主。「師匠の圧倒的な才能に憧れ、陶芸をやってみたらはまった」と振り返る。鈴木さん自身も陶芸を始めて半年経たずして多賀城市の公募展で受賞した。その後師匠の勧めもあり、本格的に陶芸の道を目指す。公募展にも積極的に応募し、河北工芸展に4回入選、新工芸東北展では最高賞を受賞している。昨年は、静岡で開催された「さきま国際陶芸祭」に参加した。国内外の陶芸家との交流を通して大いに刺激を受けたという。しかし、陶芸家一本で活躍している人たちに憧れを抱きながらも「歯科技工士の仕事も大事にし、両立を目指したい」と考えている。プライドを持って歯科技工士の仕事に臨み、患者さんの喜びのために全力で働きながら、陶芸家としても実績を積んできた。陶芸が好きで楽しむ熱量は誰にも負けない。2つの顔を持って活動が続けることが自分にとって意味があるのだという。



—— 自宅の2畳半から始まった陶芸

鈴木さんは毎日仕事が終わってから、自宅の工房で作品の制作をおこなっている。陶芸を始めた頃は、自宅の2畳半ほどの納戸の一部を作業場にして制作していた。知り合いの陶芸家に納戸の作業場を見せると「こんな狭いところでやっているの!?!」と誰もが驚いたという。他の陶芸家たちは、工房を構えて作品を制作しているらしく、今年から鈴木さんも自宅近くに工房を作り、作業場所を移した。ところが、どこか落ち着かず違和感があると言う。「他の陶芸家はいい環境を整えて作品を作っているが、自分はあんな狭いところでたくさん作品を作ってきた」それが雑草魂のようなプライドになっていたことに気づいたという。今は作業に応じて両方の場所を使い分けている。「利府にも、すげーひとがいるじゃん!」と町民の人にも思ってもらえるように、今後はより大きな公募展へ挑戦したい。そして、個展を開催し多くの人に自分の作品を見てもらいたいと語る。

取材・文 佐藤陽友



— INFORMATION

INAGO BALL(イナゴボール)
鈴木俊明
✉ peleyumi@me.com
☎ 090-7333-4907

tsumiki INFORMATION

2018.11

あなたのチャレンジ応援します! tsumiki 起業創業相談

起業を目指す方、新しい事業を始めたい方、小商い、副業、サイドビジネスに関心のある方へ個別相談に応じます。

相談員 桃生和成 (tsumiki ディレクター／一般社団法人 Granny Rideto 代表理事)
相談料 無料 [時間]1人60分 [申込]随時受け付けていますのでお問合せください。

tsumikiセレクトショップのご案内

「kamenoki natural soap」の新商品として、利府をイメージして開発した「利府梨」(1,200円)を11月から期間限定で販売します。



編集後記

tsumikiチーフコーディネーター 葛西淳子

つみきのキモチvol.8は、tsumikiライター塾2018を受講した8人の塾生と一緒に制作しました。ライター塾は、県内を中心にライター・編集者として活躍している谷津智里さんを講師に招き、7月～8月の間全3回実施。講座のなかで、取材の仕方やライティングのスキルを学んだあと、町に出かけ取材をして記事を書きました。今号の「特集」と「利府町のんびりまち歩き」を担当しています。紙面に掲載できなかった記事は、ホームページ内の「起業創業チャレンジャー」のコーナーで紹介するので、ご覧ください。

tsumiki ライター塾 2018 受講生

五十嵐千晶
Cochon / mou mol molie 担当

玉川亜桜子
Cochon 担当

大宮紗紀
Hattchi / 笑家担当

赤間泰樹
MOLA MOLA CAFE 担当

櫻井陽子
MOLA MOLA CAFE 担当

佐藤敏充
マヤナツカフェ DovesNest 担当

渡邊貴裕
Rêve de Rupinas 担当

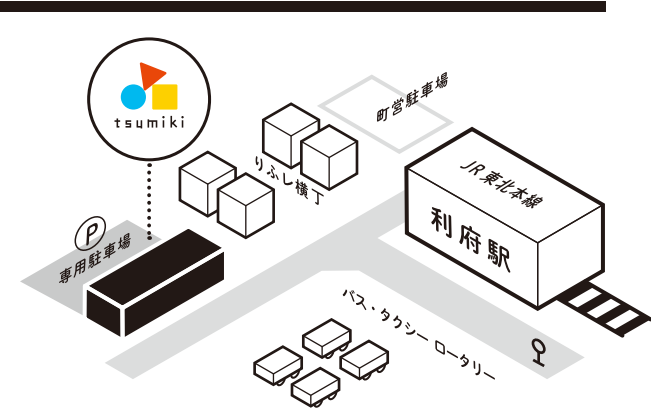
柳沼和宏
Hattchi 担当



利用時間
9:30-17:30
(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置者 利府町(政策課政策班)

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。政策課政策班は、地方創生の総括部門として「利府ならではの」シティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。

管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto

Granny Rideto(エスプラント語)は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意味が込められています。

公式ウェブサイト
rifu-tsumiki.jp

Twitter
@rifu_tsumiki

Facebook
〈tsumiki〉で検索

Instagram
@rifu_tsumiki

つみきのキモチ vol.08 発行日●2018年11月9日 発行●利府町
企画●一般社団法人Granny Rideto 編集●葛西淳子・桃生和成(一般社団法人Granny Rideto) デザイン●homesickdesign